

令和4年3月吉日

神戸支部勉強会「ぶらくり会」について

ぶらくり会世話役 平林 義康（大学20期）

神戸支部主催の勉強会「ぶらくり会」は、新型コロナウイルス感染症蔓延の影響で現在中断しておりますが、コロナ禍がある程度収束した暁には、再開したいと考えております。ここでは、勉強会「ぶらくり会」の歴史等についてご紹介したいと思います。

まず、「ぶらくり会」という名前の由来ですが、記録がないため確定的なことは申し上げられませんが、同窓諸氏が学生時代に飲食あるいはアルバイト等でお世話になった和歌山市の「ぶらくり丁」からきているものと思われれます。なお、「ぶらくり丁」は昭和初期には大阪ミナミと肩を並べる程の歓楽街・商店街であったといわれております。

次に、開催記録については昭和62年（1987年）以降の分しか残っておりませんが、諸先輩方のお話から想定して、昭和47年（1972年）頃から開催されていた模様であり、実に50年近くの永きにわたって継続している勉強会であります。

また、当初は同窓諸氏のそれぞれの実業での活躍ぶりを紹介し合う異業種交流会の意味合いが強かった様ですが、徐々に和歌山大学の先生、学外の著名人等をお招きしての講演会の色彩が強くなってきております。

そして小生が世話役を仰せつかった平成25年（2013年）以降は、会員諸氏に興味を持って戴けるテーマについてその道の専門家をお招きして講演会を開催しております。講師としてお招きしたのは、柑芦会会員、和歌山大学の先生方、現役学生、病院院長、鉄道会社の幹部、県会議員、落語家、司法書士、俳人、水族館職員、ワインプロデューサー、整理収納アドバイザー、中小企業支援会社代表、高校野球公式審判員、薬剤師、アナウンサー、防災士、等々、多士済々の顔ぶれであります。

具体的な講演テーマおよび講師のお名前は同時にアップしています「**ぶらくり会開催履歴**」に記載しておりますのでご参照ください。

なお、各講演の講演要旨については、随時ご紹介したいと思いますので、閲覧して頂ければ幸いです。

以上